

地域で語り継がれる浸水経験 (下村東地区編)

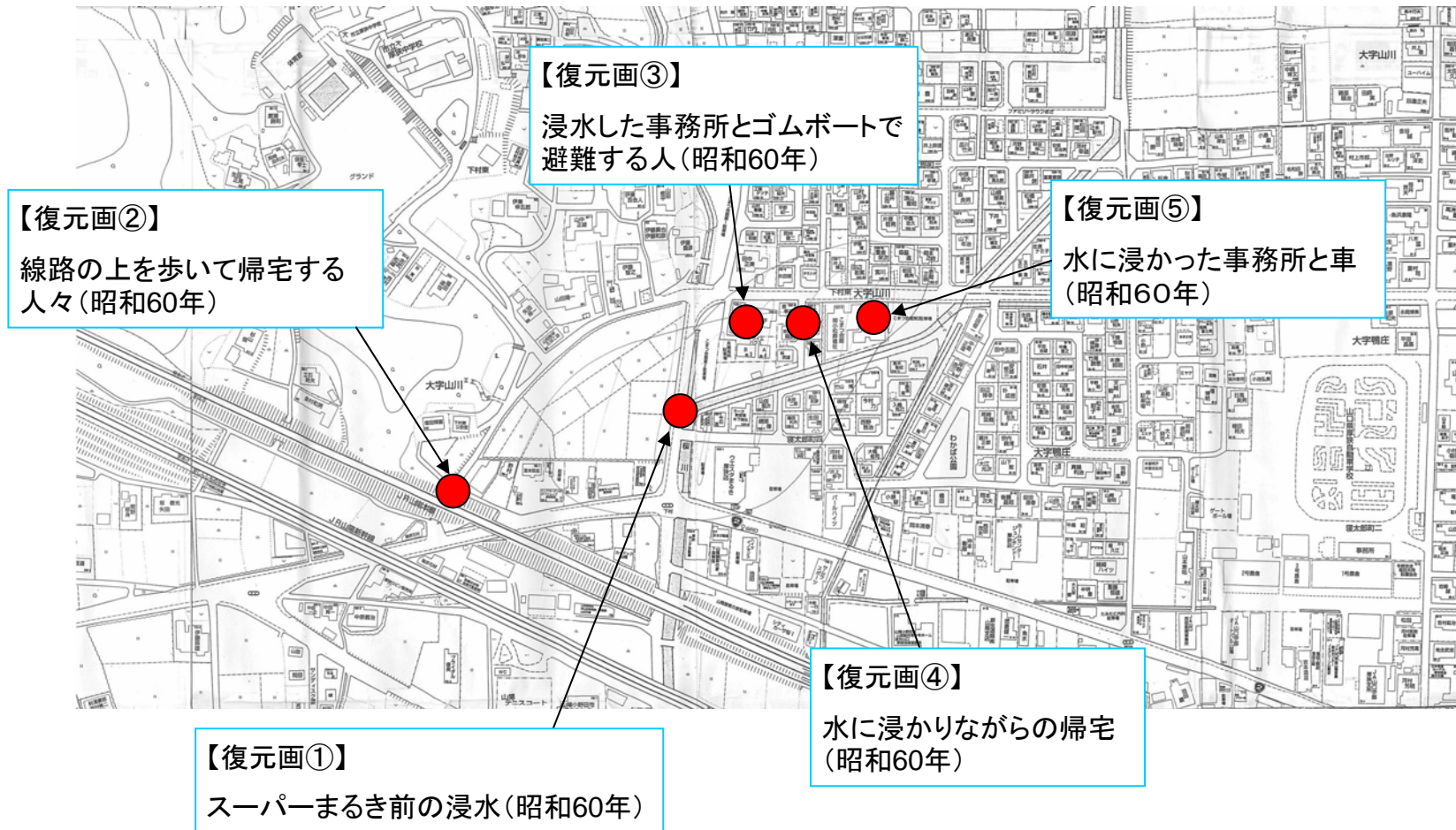
平成21年3月

山陽小野田市下村東自主防災会
国土交通省国土技術政策総合研究所
河川研究部海岸研究室

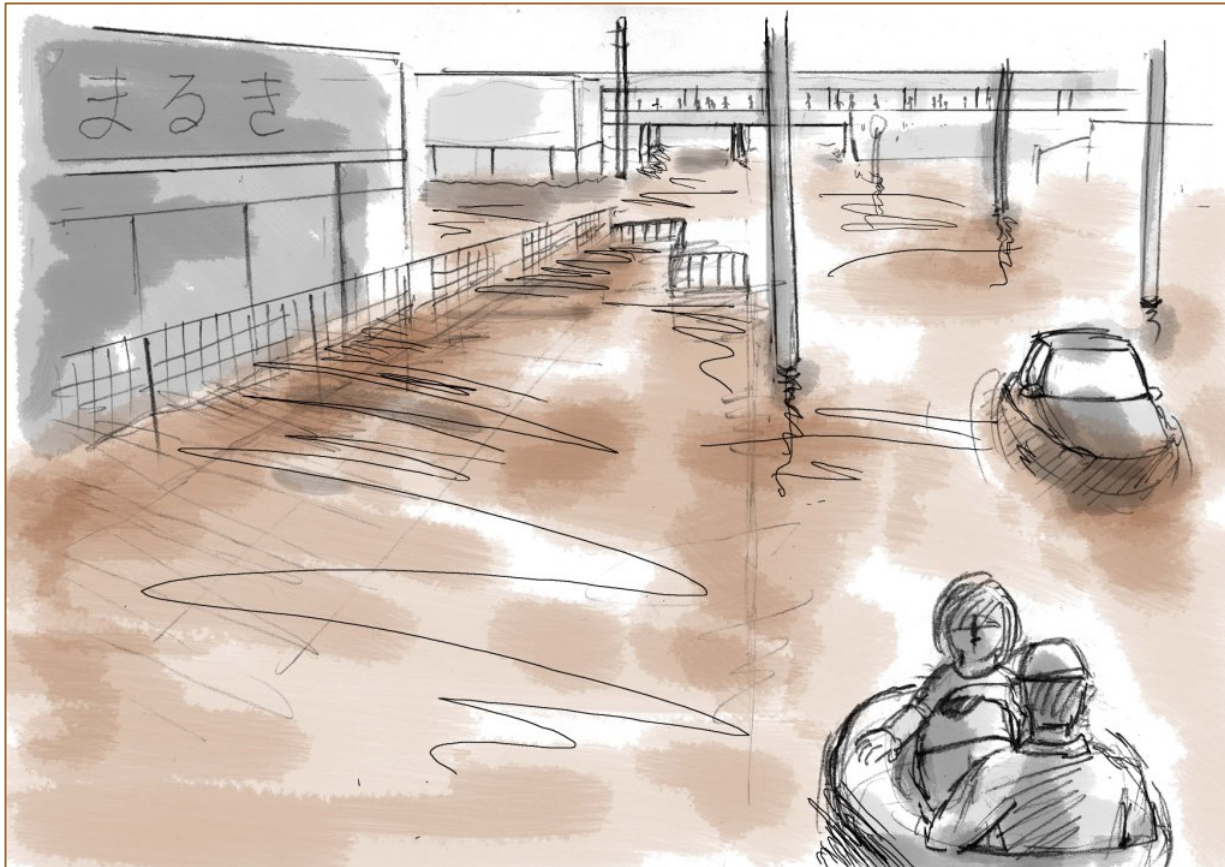
この資料について

- この資料は、山陽小野田市下村東自主防災会と国土交通省国土技術政策総合研究所河川研究部海岸研究室が平成20年11月～平成21年3月に開催した「浸水からの避難に関する座談会」においてまとめられたものです。
- この資料は、下村東地区での過去の浸水の経験をまとめ、地域の方々に広く知っていただくことにより、今後の浸水などに対する防災意識を高めることを目的として作成されました。
- この資料に掲載されている絵は、座談会での体験談に基づくものです。
- 今後発生する浸水では、この資料より浸水の深さが大きくなる可能性があります。
- この資料を用いて行う一切の行為について、この資料の制作者は何ら責任を負うものではありません。

<復元画を作成した場所とその復元内容>



復元画① スーパーまるき前の浸水(昭和60年)



原印刷所前からJR方向を見た様子

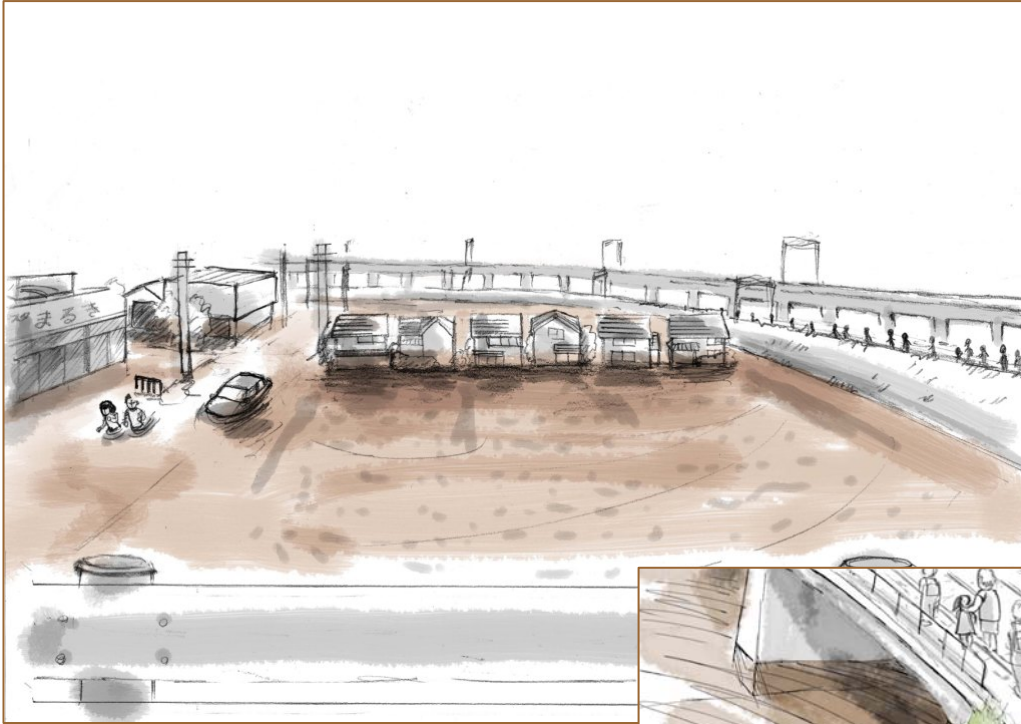
<体験談>

- ◆ 昭和60年の浸水の時、このあたり一帯は水につかり、道路と水路の区別がつかず、歩くのが危険だった。
- ◆ ゴムボートで女性などが避難した。
- ◆ 国道の交差点あたりでは進入した車が浸水していた。



現在の現地の様子

復元画② 線路の上を歩いて帰宅する人々（昭和60年）



下村東公会堂からJR方向を見た様子



線路の上を歩いて帰宅する人たち

<体験談>

- ◆ 昭和60年の浸水では、下村東公会堂周辺は水につかり、車で帰ることができなかった。
- ◆ その時、多くの人々がJRの線路の上を歩いて帰宅していた。



公会堂から見た現在の様子

復元画③ 浸水した事務所とゴムボートで避難する人(昭和60年)



交差点から原印刷所を見た様子

<体験談>

- ◆ 昭和60年の浸水では、地盤を上げていた事務所も浸水した。
- ◆ この時、ゴムボートを使って女の人などを避難させた。
- ◆ この時は雨は降っていなかった。

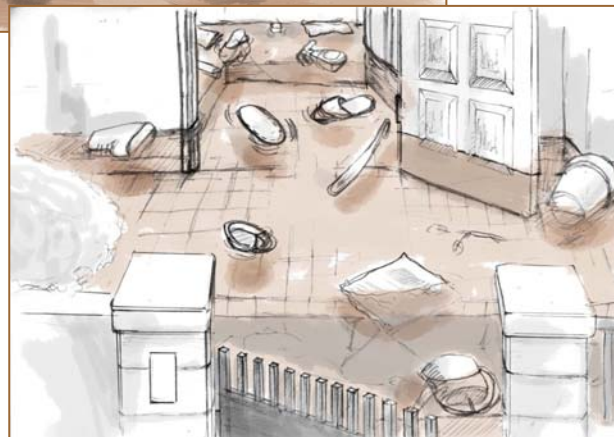


現在の現地の様子

復元画④ 水に浸かりながらの帰宅(昭和60年)



胸までつかり帰宅している様子



その時の家の中の様子

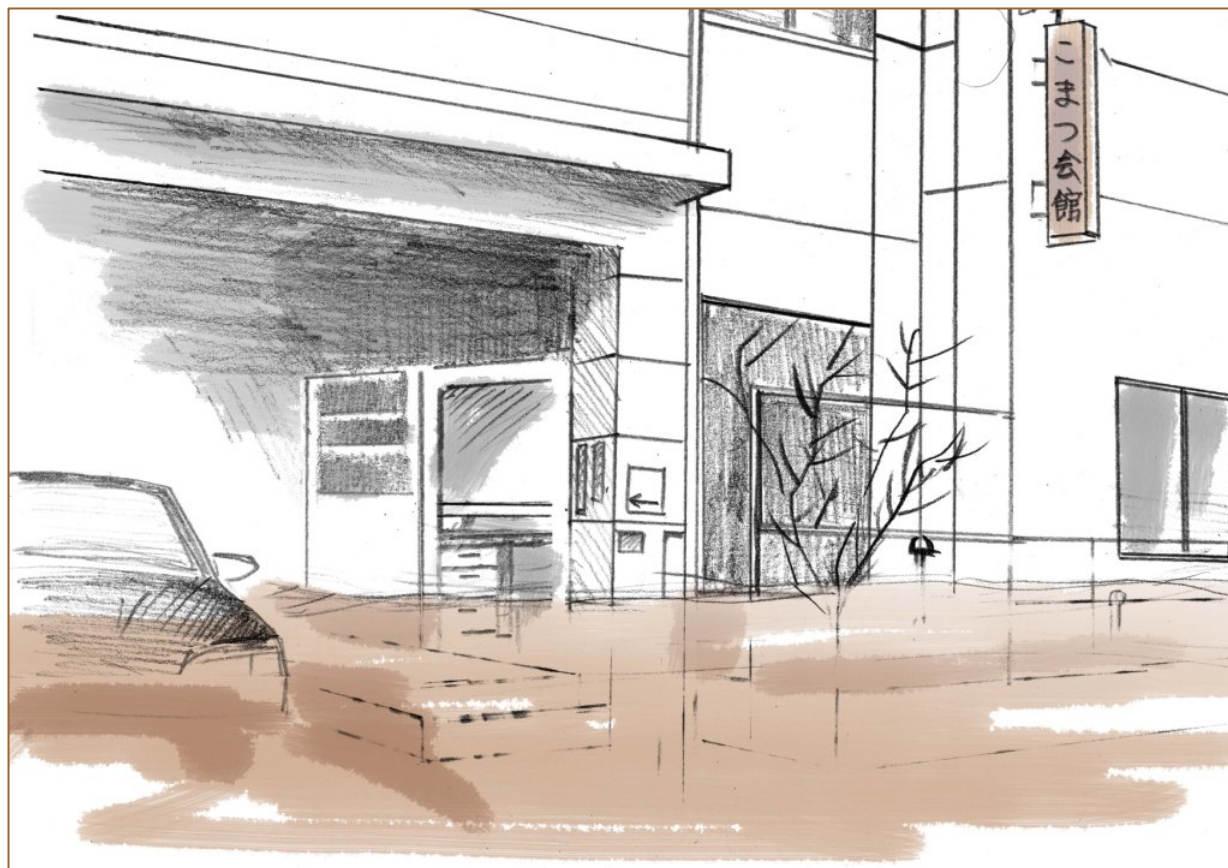
<体験談>

- ◆ 昭和60年の浸水の時、胸までつかって帰宅した。
- ◆ 途中、道路と水路の区別が出来ないので危険だった。
- ◆ 家の中はすでに浸水しており、戸を開けたら色々な物が浮かんでいた。



現在の現地の様子

復元画⑤ 水に浸かった事務所と車(昭和60年)



事務所と車が浸水した様子

<体験談>

- ◆ 昭和60年の浸水では、事務所の中まで浸水し、机の引き出しの中まで泥だらけになった。
- ◆ 会社の車を移動することができず、水につかってしまった。
- ◆ 前の道路は胸のあたりまで水がきていた。



現在の現地の様子